

【るもい農業情報広場】

令和5年7月3日

R5-7月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail : rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



水稲・園芸編も
HPで公開中!

【小麦類】

小麦類の生育は平年より3日ほど早く進んでおり、成熟期もやや早く迎える見込みです。下記の点に注意して、収穫作業の準備を進めましょう。

1. 今後の管理

(1) 収穫前のほ場観察

異品種麦などの抜き取りを行い、混麦を防いで下さい。ほ場周辺雑草の除去や取付道路の整備を行い、収穫作業がスムーズに進むよう準備しましょう。

(2) アブラムシ類

アブラムシ類の発生は、小麦類では出穂10~20日後から急増します。寄生穂率が45%（1穂当たり7~11頭程度）を超えると小麦類が減収します。今年はアブラムシ類も含め害虫の発生が早く密度も高めです。病虫害の発生状況はほ場により異なります。トラクターからおりてほ場を観察して下さい。使用農薬については、「農作物病虫害防除および防除剤使用ガイド」最新版と農薬のラベルをご確認ください。

(3) コムギなまぐさ黒穂病とは？

コムギなまぐさ黒穂病は、減収のみならず異臭によって生産物の品質を低下させます。汚染された生産物が乾燥施設や調製施設に混入した場合は、施設全体が汚染され、被害が大きくなります。

留萌管内ではこれまでは発生が確認されていませんが、収穫前にほ場を確認し、早期発見により被害防止に努めましょう。ほ場で発見した場合や、収穫中に異臭を感じた場合には、直ちにJAへ連絡して下さい。

2. 収穫作業

(1) ほ場をよく確認し、子実水分が30%以下になったら収穫を開始します。

(2) 試し刈りを行い、損傷粒や未脱粒がないようコンバインを調整します。

(3) 倒伏・穂発芽・赤かび病などの異常麦は別刈りとし、正常な小麦への混入を避けます。

(4) 高水分小麦は、異臭麦発生の原因となるので長期堆積(3時間以上)を避けましょう。

【大豆】

豆類は平年より5日早い生育となっています。下記の点に注意して管理作業を進めましょう。

1. 中耕

- (1) 中耕は着蕾までに終了させます。着蕾以降の中耕は断根が多くなり、落花や落莢の要因となります。
- (2) 中耕・培土となる場合は、汚粒軽減のため高さに注意して下さい。

2. 追肥

- (1) 生育後半に根粒菌の活性が劣るほ場
開花期頃に窒素量5kg/10a程度施用します。
- (2) 水田転換畑で大豆初作の場合や透水性が不良なほ場
開花期の根粒菌着生数に基づき追肥の要否を判断します。

【追肥量】大豆5株程度を確認します。

○1個体当たり根粒着生数が10個以上の場合 → 追肥は不要

○1個体当たり根粒着生数が10個未満の場合 → 開花期に窒素量10kg/10a程度追肥

農薬散布にあたっては「農作物病害虫防除および防除剤使用ガイド」
の最新版(黄色い冊子)も参照して、適正使用に努めてください。